
無題

カ～ズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題

【Nコード】

N5949I

【作者名】

カズ

【あらすじ】

テスト投稿です。今後書きなおします

テスト投稿です。

青い青い空を見ていた。

その日も変わらずに

しかし彼の日常はもろくも崩れ去ってしまった。

ある出会いによって

基地内は混乱していた。

予想されていた以上に敵は進化していたのだ。

幾度となくシミュレーションを重ね作り上げたマニュアルも役に立たず、人々は死んでいった。

瓦礫の山が広がり、赤く染まった血がまるで破裂した水道管のように飛び広がっていた。

我々に残された時間はあと少ししかない。

そうあと少ししか……

「まだ部隊は到着せんのか!!」

男は部下に向かって声を張り上げる。

しかし、事態は変わることはない。それは分かり切っている。

(この機会を逃せば本当に人類は道をなくす。ならばせめてわずかな可能性だけでも残すべきだろうか)

再び報告が入る。

「第十七隔壁突破されました。敵の予想到達時間は1分30秒」

(時間がない。ならばやることはひとつ)

男は命令を下す。

「今からフェイズ5に移行する。特別部隊はもう来ない。ならば我々がすることはひとつ。彼らを送り届けることだ。今から装置を起

動させる。その間は絶対死守だ」

その場にいる部下数十人はすべて男を見ていた。

男は周囲を見渡した後、視線を隣に向け彼らを見た。全員がまだ年端もいかない少年と少女。しかしその瞳は決意に満ちていた。

「敵侵入してきます。10、9……」

「全員武器を構えろ。入ってきた瞬間一斉射撃……」

「発射!!」

ものすごい数の銃弾が敵を捉える轟音がした。

しかしその音もほんの数秒で弱くなる。

(くそ、歯が立たない)

男はそう思ったが口には出さない。部下たちもきつとそう思っているだろう。だがこの場で弱音を吐くことそれはすなわち死を意味する。

男の部下たちは一人、二人と死んでいった。

終わりのない戦いが続く。この戦いが終わるのはここにいる全員が死んだとき。

「あと何秒だ？」

女性は答えた。

「あと10秒です」

そう答えた瞬間、女性の胸を刃が貫通した。

「よし全員あいつに飛び込め」

男は自分たちが死守してきた装置に向かい指さす。男の周りで戦っていた少年少女たちの生き残り数名が装置に向かって走り出した。

一人の少女が男の方をずっと見つめていた。

「ありがとう父さん。私は約束守るから……」

少女はそう言い残すと振り向くことはなかった。彼女の目からは一筋の涙がこぼれていた。

男は最後の力を振り絞り残りの部下を引き連れて敵に立ち向かっ

た。

右肩を敵の攻撃が引き裂いた。痛みなど、とうの昔に忘れてしまった。

武器をすぐさま左手に持ち替えると敵の懐まで潜り込む。

完全に潜り込んだはずだったがそこにはもうひとつの敵の触手があつた。

コアは目の前に見えている。

男は触手の攻撃を避けることもなく。もう動かない右手を盾に使い、左手に持っていた銃をコアに向けて連射した。

敵はあっけなく沈黙したが、血が流れすぎたせいか男の意識は薄れていた。

最後の気力を振り絞り装置の方を見た。

一人の少女の姿を見た。先程の涙など忘れてしまったかのような

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5949i/>

無題

2011年1月16日09時08分発行